

SOTO禅インターナショナル

発行日 平成5年10月15日

発行人 松永然道

発行所 SOTO禅インターナショナル事務局 埼玉県行田市下中条1619-2

創刊号

主 な 内 容

特集

国際化の中の曹洞禅を語る！

◆海外だより 釈尊の説いた教化の条件 奈良康明・駒沢大学教授
サンフランシスコ桑港寺
ハワイ・カウアイ禅宗寺
三好晃一師

他 ミュンヘン直心庵

中川正寿師



1941年12月7日 日米開戦。ニューメキシコ州サンタフェ収容所の曹洞宗、浄土宗の開教師。(ハワイ、米本土) 1942年収容所内にて撮影。
山下顕光、山根、西沢宏山()久保田、花田、森田宏悦、
田中哲翁、池田文淵、北島昌、日野、上島泰岳、小沢義浄、立花隆幸、松浦玉英、
池尻、吉住浩蔵、穀蔵禪戒、名護、北島良、野崎、白鳥、今村、諸師。

海外開教先達諸尊宿の
労苦、偉業に感謝の誠
を捧げ、益々正伝の仏
法が興隆されんことを
祈念するものである。

会報創刊にあたって

曹洞禅インターナショナル会長 松永然道

過る二月に、両大本山及び宗務庁、元海外開教師、また海外開教について今日までご支援や関心を寄せられた多くの先輩諸

老師の参加を頂き、曹洞禅インターナショナルが発足の運びとなりました。

大変遅れましたがここに第一号の会報をお送りいたします。

記念すべき創刊号の巻頭に奈良康明先生の論文を幸いにも頂く事が出来ました。今、世界中

がこの変革期に当たって、我々宗門人も等しく己を見つめ直し、国内、海外をとわず布教教化とは何かを再考すべきであります。

この時期に曹洞禅インターナショナルが発出来ますことは、意義深いものと思います。

奈良先生の巻頭に述べられた意とすると、会を会の理念として行きたいものと思います。

開教諸師は多様性の世界で教化宗団の一人として、違う世界観を肌で受け止め、共生してきた経験を持っています。国内にあっても、現在のお互いの情報を交換し連携を密にすることが、引き続き懸命の精進をしている現開教諸師、更には国内の諸老師方の浄業に細やかながらも役に立つことになるのではないかと思います。

この会報に、皆様からの種々の情報を提供して頂き、共に当面する問題に取り組んでいきたいと思ひます。宜しくご指導、ご協力をお願いしご挨拶いたします。

◆クローズアップ・コーナー 元ハワイ開教師 秋田新隆師

◆国内インフォメーション

横浜善光寺留学僧育英会留学生募集！
国際的な禅道場を目指す熊本聖護寺

森山大行師南米開教総監に！

奥村正博師ミネソタ禅センター主任開教師に！

◆その他

創刊号特集

国際化のなかの曹洞禅

釈尊の説いた教化の条件

駒沢大学教授 奈良康明

(一)

禅が世界的な関心をあびていくという。たしかに、外国人が禅を求めるそれなりの需要はあるし、禅の教えが今日世界の人々に説かれるべき宗教的な内容を持つていることも確かである。しかし、だからといって、日本人に対するのと同じように説けばいい、ということにはならない。いや、日本人に対してさえ、今の説き方が十全のものであるとはとても言えないのである。

スタンフォード大学のC、ビールフェルト教授は、アメリカにおける道元禅師への関心を「哲学者道元」にほぼ限られているという。「宗教者道元」や、鎌倉期に生きた宗教的人格としての「人間道元」への関心、研究は大幅に欠落している。これは、ある程度事実だろうと思う。禅の歴史的かつ文化的伝承のなるところでは、理論から入るのもっとも手早いものだからである。

しかし、嘗ての鈴木大拙が禅を説き、大いに欧米の知識人を啓蒙したのと同じく考えてはならない。今日、欧米各地には曹洞宗系の（いや、組織としては）はつきりと曹洞宗にかかわる（禅センターが数多く樹立され、青い目の白人が黒衣の袖を翻して坐禅と作務の生活を続けている。経済的にもとにかく独立して、これは教団としての曹洞禅の定着である。両祖の教えは、今や、欧米の地に根をはやしたのであり、現象的にはささやかなものはあっても、曹洞禅は外国で新たな発展にむけて、すでにスタートしてしまっているのである。

外寺院の活動としても、日系人を含む外国人の中に生きる曹洞禅の可能性が検討されなくてはならない。それはすなわち教化の問題である。曹洞禅の国際化は種々の視点から検討されるべきだが、ここでは、教化の面から考えてみたい。

(二)

から考えてみたい。ヴァーラーナシーでの初転法輪の後、釈尊はしばらくこの地にとどまっている。五人の嘗ての修業者仲間も教化し、その他多くの青年を出家・修業させ、ある程度の人数が揃ったところで、釈尊は弟子たちに各地に伝道に赴くよう命じる。

その時に、釈尊は次のように説いている。

比丘たちよ、私は・・・一切の束縛から自由になった。そなたたちも同様に自由となった。諸人の利益と幸福のために、また世の人への共感をもって、神々と人間の利益、幸福のために、そなたたちは出かけるがよい。

(なるべく多くの人に教えられよう) 二人して道を行くな。初めも善く、中ごろも善く、終わりも善く、道理と表現とが備わった教えを説きなさい。この上なく安全で、清らかな行いを人に示しなさい。世間には心の目(欲望の)塵垢にそれほど覆われていないのに、教えを聞くことができないところから墮落している人がいる。(教えられれば)彼らは真実を悟れるであろう。

(「相応部經典」一・四・一・五)

「もろもろの人の利益と幸福のために」というのは釈尊の伝道の目的が人々の救済にあることを示している。

必ずしも物や金、仕事などを与えることではなく、精神の救いであることは明瞭である。釈尊を初めとする当時の出家者は、社会を出た人である。従っ

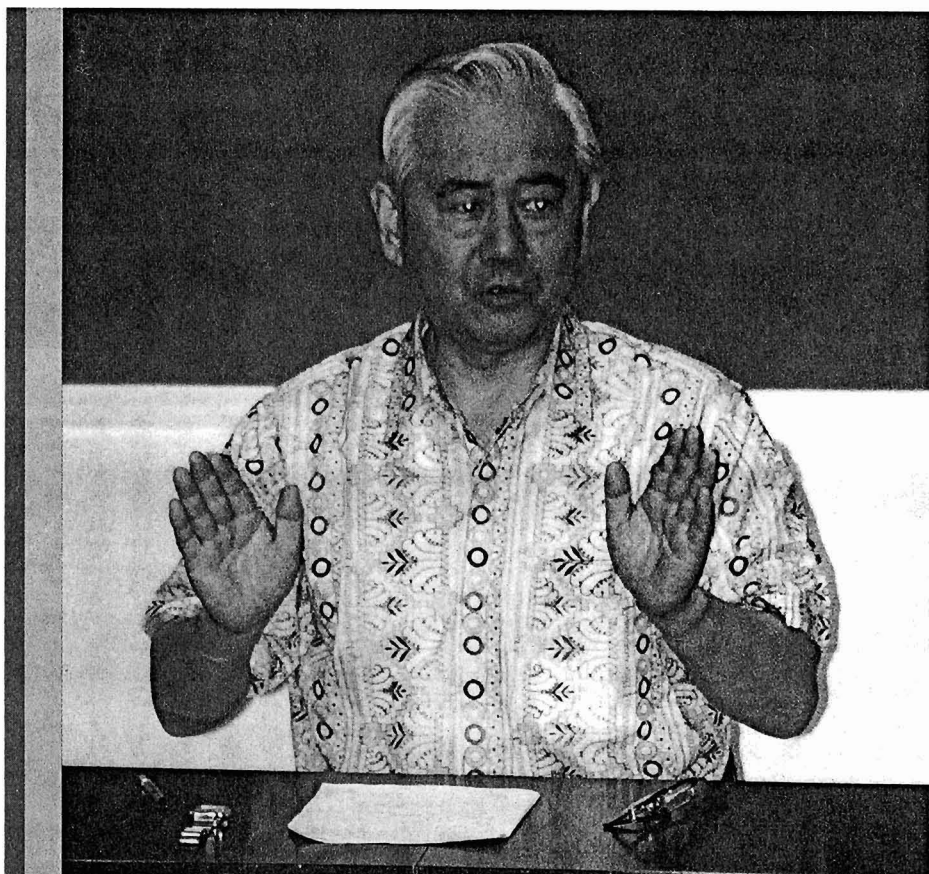
て世俗社会の福祉や貧困などに具体的にはかかわるべきではないという鉄則がある。

この点が現代の私たちと異なるところで、私たちは社会内の存在である。国勢調査で国民の一人に数えられ、(托鉢によって食を得るのではないから)経済的には自立し、所得税を払って

いる。社会の一員であるだけに、宗教者の社会的責任は?などと問われている。

しかし、仏法の最基本は、真実に随順して生きる努力を続けるものであろう。自己のプロセスのなかにこそ、それぞれの宗教者としての社会への働きかけ

が含まれている。だから、心か物か、精神か福祉かなどという軽率な二元論で、我々の宗教活動の領域を規定するべきではない。社会の人々と心の痛みを分かち合うところから我々の教化、伝道はスタートする。そこから、いわゆる一個半個の教化もあるであろうし、積極的に



奈良 康明 (なら・やすあき)

1929年12月、東京に生まれる。

1956年、東京大学大学院人文科学研究科印度哲学専攻修士課程卒業。

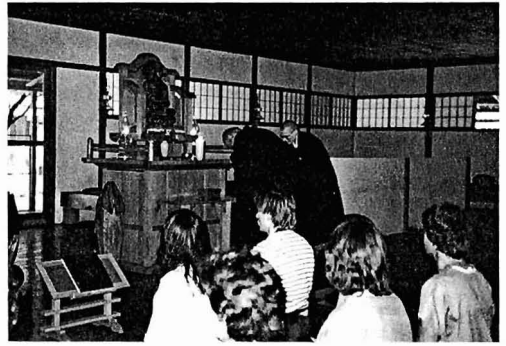
1956年—60年、カルカッタ大学大学院・人文・比較言語学科博士課程に留学。1960年、駒沢大学仏教学部非常勤講師、同大学専任講師、助教授を経て、1973年、同大学教授、現在に至る。この間、1975年—78年、同大学教務部長、1983年—86年、同大学副学長を併任。文学博士。1980年、東方学術賞受賞。日本印度学仏教学会理事、日本宗教学会理事、曹洞宗教学審議会委員。

著者に「ブッタから道元へ」(東京書籍刊)、「仏教の教え」(東京書籍刊)、「ラーマクリシュナ」(講談社刊)、「釈尊との対話」(NHKブックス)、「仏教史—インド・東南アジア」など多数。

社会活動を展開し、具体的な形で社会に貢献する道も開けている。「人々の利益と幸福のために」何をするのか、何が出来なのか、それが私たち各人の決意と選択の問題であろうと思う。それがすなわち「世の人々への共感」にはかならない。

さりげない表現の中に、釈尊は無限の思いをこめてこのことを語っていると私は思う。人に親切にせよ、善をなせ、といった表現と同じで、ことばとしては何ということもない。あるべき理想を述べているように見えて、しかし、真摯にそれを受けとめ、実践するためには、全生活をあげての決意と努力が必要とされよう。まさにその決意を釈尊は弟子たちに要請しているものだし、同時に、これは私たち教団への戒戒でなければならぬものであろう。

釈尊は二人して道を行く、と命じる。何故二人で行ってはいけないのか。なるだけ多くの人に聞法の機会を与えるためであって、これも伝道への熱意のあらわれと見るべきであらう。



それではどのようにして教えを説くのか。仏典は「初めも善く、中ごろも善く、終わりも善く、道理と表現とが備わった教えを説け」という。道理を備えるというのは、智慧と慈悲を備えた教えとみてもよいものである。

しかも、表現が備わっていないければならない。ここでは判りよい表現、優美な表現、人の心を魅了する表現、などと言い換えてもよいものである。教えは人々に理解され、心をゆさぶる、信をおこす契機とならなければならぬ。

まさにここに現代の私たちが直面している大きな問題がある。判りよい禅の表現とは、禅の教えの今日的な表詮といつてもよい。果してその教えがある

だろうか。

これは宗学研究にかかわる問題である。正直に言わせてもらえば、今日の曹洞宗学は私たち一般の人間には理解できないことばでつづられている。それは、一つには、単にことばのみの問題ではない。論理、ないし、レヴェルの問題だろうと私は思う。

つまり、「正法眼蔵」であれ、その他の祖師方の語録であれ、すべてはいわば「悟りの立場」から説かれている。坐禅は手段ではなく、目的だといふ言い方に坐禅することと問われて、「無目的」と答えるお師家さんは少なくない。その意味は、坐禅は仏行であり、坐ることが仏としての自己を顕しているものだから、ということであろう。この説明は私たち宗門の人間にはそれなりに判る。小僧の時から聞かされ、少しずつ身体に染み込んでいるし、幾分の理論的説明もなされている。しかし、所詮「悟りの立場」からの、「仏として」の表現なのであり、日常の論理で成り立っている会話にはなじまない、そもそも、人間の行為にして目的のない行為などというのは、論理的にありえない。

い。だから「無目的の行為」と言っても理解されにくいのである。これに対して、「だから坐禅は人間の行ではない、仏の行だ」などと言うのは、誤解をより増すだけのことである。

やはり、一般の人に説こうと思つたら、人々の判ることばで語らなければならない。例えば、坐禅は自我のはたらきを抑える手段である、などと説いておいて、次第に坐禅が仏行であることを説いて行くことは可能であろう。

下らないことのようにだが、まさにこうした点に禅の教えの難解さがあるように思う。修業者相手ならいざ知らず、一般人たち、それも外国の人たちに禅の論理をそのままぶつけても理解されるはずがないのである。この意味で、今日の洞門では、少なくとも上の意味で整備された表現が身近に利用できるとは思えない。教えの「表現」に関する不満の一つはここにある。

しかし、同時にこれは宗学者のみに任せておけば良いという問題でもない。「表現を備えた教え」には別の面から考えるべきことがある。なぜなら、私たちはいまや教化活動をしよう、と

決意しているのである。教化す

るといふ以上、教化すべき何物かを私たちは自らに持っているはずなので、その理念こそを、ことばで示すこともまた「教えの表現」に違いない。必ずしも、学問的な表現のみの問題ではないのである。

それは端的に私たちそれぞれの問題であり、実は、それと関連して釈尊の次のことばを聞く必要がある。

(四)

釈尊は道理と表現が備わった教えを説け、という反面、「この上なく完全で清らかな行いを人に示せ」と言う。これは仏法が表現だけの問題ではないことを示すものである。仏法は人々の生活実践、あるいは修業を通じて、はたらきだす。教えを説くものが自ら説くものが自ら法を実践し、人に示さなかつたら、説得力もないし、人間的な影響を通して生き方を教えることも出来ない。

各人の仏法の理解と自覚の上に実践されなかつたら、どんなに素晴らしい学問的な表詮でも単なる知識でしかない。そして

世界の傾向は、単なる哲学、知識としての宗教よりも、実在的な「生きる」道としての宗教が求められている。禅に関心がもたれるのも、まさに禅が「生きる」道であり、仏法、つまり真実に自ら「参加」するものだからである。同様に、知的な、それこそ人々が理解できる表現を持った説明がなければ、「生きる」実践の方向を示すことは出来ない。

知と行はこうして車の両輪のように共にはたらくものだが、まさにここに私たちの教化の現実的な出発点が見いだされるものであろう。私たちはとにかくスタートしなくてはならない。それぞれに社会的かつ宗教的な活動を展開しつつ、それを支える学問ないし実践の理念は常に模索されなくてはならない。逆に仏法に随順する私たちとしては、禅の教えは、真に、自己を見いだしつつ「生きる」方向を導くものとして、実践にはたつき出てこなくてはならない。

教化のポイントは、結局、世の人々への共感であり、心の痛みのかち合いであり、宗門人としての自覚に基づく実践ということに帰着するものといえよう。

海外だより

北米

サンフランシスコ
桑港寺主任
細川正喜

92年の北米総監部の行事を振り返ってみると、九月上旬にカリフォルニア・ナパバレーに於いて開教師協議会が開催、十一月中旬には第三回北米・ハワイ曹洞宗信徒大会がサンフランシスコ桑港寺を会場に開催され多忙な一年であった。

開教師協議会は第三回を迎え、特に今回より、開教師のみならず寺族を含めた会議とな

り、内外における問題を寺族の立場から提起してもらい、今後の開教の在り方に対して一つの警鐘であった。

特に生活の点では、家族を支えるための具体的な例が出され、その第一に挙げられたのは、開教師の生活保証の改善が急務とされた。この為、総監部、宗務庁と協議の上、その対応を進めている。

更に慢性的な開教師の不足という事態が続いており、その対策にも苦慮している状態であり、今後の課題として急ぎ検討しなくてはならない。

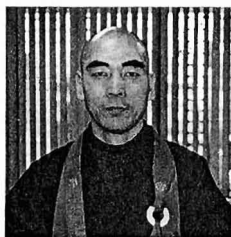
第三回北米ハワイ曹洞宗信徒大会では、ハワイより約六十名、北米側より七十名が参加し、信徒側より教団のかかえる問題が提示され、開教師と信徒との開教のあり方が問われた。又、特別講師として、駒沢大学教授大谷哲夫師と、浄土真宗シカゴ佛教会開教師小杭好臣師の講演があり、両師の豊富な体験に耳を傾けた。

海外開教のかかえる問題は多岐に亘り山積しているが、総監

部を中心に、開教師間の連携と信徒間の協力により、今後の開教の資に処したい。

総監部でも、これら各種の行事を催す際に米国内に留まらず、広く日本からの参加を呼びかけ、相互の理解と協力のもと、正伝の佛法が流布されるよう望むものである。

ヨーロッパ

中川正寿師
一時帰国ドイツ・ミュンヘン
直心庵主任
中川正寿

去る三月十日、一時帰国されたドイツ・ミュンヘン・直心庵主任開教師・中川正寿師に、お話を伺いました。

現在は、接心を中心に、時には、他の禅のグループの要請で講義をしたり、坐禅の指導をしたり、また、キリスト教の信仰を持つ一般の人々から招待を受け、パネルディスカッションの

パネラーとして禅者としての立場での意見を求められるとのことです。そして、最近、積極

ハワイ

米国ハワイ州
カウアイ島禅宗寺
住職 三好晃一

本年は、ハワイのカウアイ島に曹洞宗禅宗寺が創建されて90年目にあたります。

また、昨年ハリケーン『イニキ』により破壊された諸堂の修復が10月に完了する予定でございます。当山では来る11月14日、開創90周年並びに修復記念法要を厳修いたします。

13日には盆踊りなど多数の催しを取り揃えた前夜祭も計画しております。

つきましては、この勝縁にぜひ日本の宗侶、檀信徒の方々のご列席を賜りたくお誘い申し上げます。

的にキリスト教等の聖職者との交流にも力を入れているとのことです。

秋冷の日本を離れ、南の島の休日も併せてご満喫いただける絶好の機会でもあるかと存じます。

開創90周年及び、ハリケーン災害復興記念
ハワイ、カウアイ島 禅宗寺参拝の旅

●期間 平成5年11月12日(金)～17日(水) 6日間
東京・名古屋・大阪・福岡発 全食付・添乗員同行

す。皆様お誘い合せのうえ多数ご来啼いただけることを祈念いたしております。

合掌

祝電

冠省
曹洞禅インターナショナルの創立を祝し今後益々、海外開教の為、ご指導とご支援をお願い申し上げます。

北米開教総監 山下顕光 他開教師一同

「SOTO禅インターナショナル」発足趣意書並びに原案ご送付下されまして有難うございました。大変結構な趣意で満腔の賛意を表します。

後略

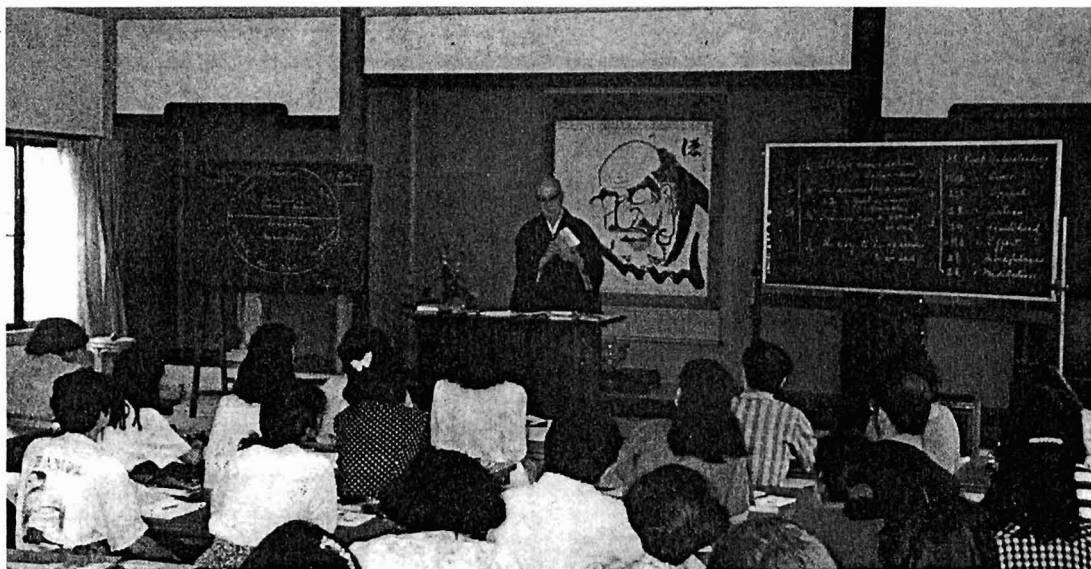
ロサンゼルス禅センター・仏心寺 前角博雄九拝

クローズアップ・コーナー

二
の
人

元ハワイ・カウアイ島・禅宗寺駐在開教師

静岡・法幢寺住職 秋田新隆師



英語で講義する秋田住職

秋田新隆師は昭和三十五年にハワイ・カウアイ島禅宗寺駐在開教師として赴任して三年半の海外布教をされ帰国し、現在は静岡県静岡市長沼・法幢寺住職としてハワイでの経験を生かした地域でのユニークな活動を展開されています。

秋田師は、フレンドシップ・フォース静岡の会長、国際交流協会推進委員等、地域での国際交流に大変力を入れられております。

日本語を学ぼうとしている県内在住の外国人教師の研修会、或は、日本文化を外国人の友達にどのように英語で説明するかという研修会、或は、外国人に仏教の歴史、思想などの講義と坐禅の実践という研修会等に、自坊を開放し、自ら講師としても活躍されています。

寺に泊まり込んでの研修の時などには、地域のご婦人達が、精進料理などの食事を作ったり、地域ぐるみでバックアップしています。これもひとえに日頃の秋田住職の布教の賜物です。

「国際交流」と言葉では言いますが、表面だけの交流では意味がありません。それぞれの文化・考え方の違う人々と本当に

交流するには、相手の文化を知るところからはじまるのではないのでしょうか。地味ではありますが

すが、地域のこのような活動から真の国際交流というものが育っていくのだと信じます。

国内インフォメーション

留学僧募集！

横浜善光寺留学僧育英会(黒田武志理事長)では、平成六年度、留学僧募集を行っている。

教の役割

当会は、昭和六十年より既に、五十名の留学僧を送り、また海外僧を受け入れて、国内外に評価を受けている。

②世界平和と仏教徒の誓願
③留学僧として私はこれを学ぶ

目的は、仏教を修業する者のうち、学業操行ともに優秀にして心身堅固なものを海外に派遣し、または、海外より日本国内に受入れ、仏教の交流、国家社会の進運に寄与しうる有為な人材を育成すること。

*いづれか一題を選ぶこと。
④異文化の中で仏教を学ぶ
四百字詰原稿用紙五枚以上

二 保証人と連署した願書

三 卒業証明書

四 履歴書

五 推薦者

六 健康診断書

提出書類は左記のとおり。

書類の提出締切りは平成五年十月十日事務局必着のこと。尚、詳細については事務局にお問い合わせ下さい。

一 論文

論題

①これからの国際交流と仏

横浜市港南区日野町一六〇四
☎〇四五―八四五―一三七一



去る八月二十六日、奥村正博師一家(奥さんと子供2人)は、ミネアポリスに向けて、成田を出発した。奥村師は、アメリカ東部のマサチューセッツ州パイオニアバレー禅堂(現在は、藤田一照師が主任開教師)の基盤を市田師と共に築いた。



奥村正博師

ミネソタ禅センター 主任開教師に奥村正博師

帰国後、外国の参禅者用のテキストの必要性を痛感し、京都禅センター・故細川佑葆師の援助を得て「DOGEN ZEN」「SHIKANTAZA」「GAKUDO YOJINSHU」「SHOBOKENZO ZUIMONKI」などの翻訳を手がけている。

また、奥村師は、国内外で行われる接心や国際特別安居等の講師として指導にあたり、宗門でも貴重な人材である。ミネソタ禅センターに学ぶ人々からの期待に答えるもので、曹洞宗の国際化が問われる現在、宗務庁としても適材適所の人事である。

国際的な 禅道場を目指す 熊本 聖護寺!

熊本県菊池市にある聖護寺は、室町時代(一三三八年)肥

南米開教総監に、平成四年十一月十二日付けで、前南米開教総監・青木俊亨師の後任として、大菩薩山僧堂瑞岳院・前堂頭・森山太行師が任命された。森山師は米国サンフランシスコ桑港寺駐在開教師として、昭和四十五年から三年間駐在経験がある。瑞岳院開堂十周年を記念して、平成元年九月、「道元禅」



森山太行師

南米開教総監 に 森山太行師!

を発足させた。道元禅師の示された仏法の神髄である「弁道法」を実践する場として、海外から

を世界の人々に広めるために、森山師は親しい住職や在家の信者と共に「国際禅仏教交流会」

後の豪将・菊池武重公が、大智禅師を迎えて建立した古刹である。現在は四国・瑞應寺堂頭・檜崎一光師が住持として、境内地の拡充、本堂屋根改修、開山堂新築、僧堂衆寮建立等整備を着実に進め、国際的な視野に立った国際禅道場を目指している。

昨年夏、日米から約二十名の参加を得、第一回目の国際特別安居が開催された。そして今年、第二回目が開催され、国際禅道場としての活動がようやく軌道に乗ってきた様に見受けられる。

第一回目に参加した太原レイトン師は、サンフランシスコ禅センター発行のウインドベル(平成五年度春号)の中で、「この国際特別安居に参加して、外国から参加した修行者と、日本から参加した修行者との間の修行についての取組みの姿勢が違ふ。つまり、外国で修行しているものは、修行中、何か疑問があつたらその場で師に質問するのは当然であると考え。しかし、日本では、知的理解を超えて自分の肌で体得することの大

切さを説く。永年、アメリカの地で禅を広められた故片桐大忍師がこのように日米の修行者が一緒に修行するような場を強く望んでおられた理由がわかった。」と述べられている。

世界で禅が関心をもたれ、各地に禅センターが定着しているとはいっても、まだまだ教団としての対応が不十分であることは否めない。聖護寺での国際特別安居は、これからの曹洞宗の国際化の中の海外開教にインパクトを与えていくであろう。

仏道を学ぶために日本を訪れる外国人の人達に開放している。日本の大部分の寺は、檀家制度中心に成り立っていて、法事・葬式等の檀務で忙しすぎ、本格的な坐禅弁道ができにくい。瑞岳院では、既にアメリカ、ヨーロッパ、南米各国から述べ三百人を超えた人々が訪れ、まさに国際禅仏教交流の場として活動してきた。

森山師は、当面、南米総監部の改築という事業を手がけねばならない。五十代の総監ということ、宗門内外の期待は大きい。今後の活躍を祈る。



SOTO禅インターナショナル 会員募集！

平成5年2月8日 SOTO禅インターナショナル設立発会式(於：東京グランドホテル)

- 宗報五月号(九十三ページ)国際インフォメーションでSOTO禅インターナショナル発足の報告をさせて戴きました。その後、全国より暖かい激励、ご支援を戴き、新たに会員も少しではありますが増えております。しかし、宗門の中の国際化を目指すためには、もっと「草の根」的に宗門人一人一人に理解をして戴かなければなりません。そして、現在海外で布教に従事している開教師への支援をしていきたいものです。
- 宗門の中では海外に対する理解がまだまだなされていません。ですから一人でも多くの方に会員になって戴き、大きなうねりにしていきたいのです。
- 年会費 正会員 五千円
賛助会員 壹万円
- 今後の活動
- 一 海外で布教に従事している開教師への支援
 - 二 海外布教や宗門関係の国際問題の情報交換
 - 三 国際化社会に対応する曹洞禅のあり方、また、布教のあり方を考える
 - 四 機関紙の発行
 - 五 その他必要と認める活動

編集後記

ようやく第一号の発刊にこぎつけました。創刊号だからという事でインパクトのあるものと、少々構えすぎて発刊が遅れてしまいました。次号からはタイムリーにもっと良いものが出来るかと確信しております。どうぞご期待下さい。

さて、現在在日外国人は百二十八万人とのこと。百人に一人は外国人ということになります。最近、宗門でも海外から多くの参禅を希望する方、或は僧となつて修業にくる方が増えて

います。しかし、それらの人々への対応が必ずしも万全であるとは言えません。また文化習慣の違う海外で布教に携わっている開教師諸氏のご苦労は大変なものです。是非バックアップしていきたいものです。今後、会員の皆様にいろいろな情報を提供することによって、海外関係のことに理解を深めて戴き、輪を広げていきたいと思ひます。

結びに、快く原稿をお引受け下さった奈良康明先生、並びに、表題の「禅」を揮筆下さいました大竹明彦老師に紙面を借りて御礼申し上げます。(伸)

会長 松永然道(元ハワイ、南米、北米開教師)

副会長 大山陽道(元ハワイ開教師)

藤川享胤(元北米開教師)

事務局長 福島伸悦(元北米開教師)

西沢応人(元ハワイ開教師)

事務局 大場満洋(元北米開教師)

堀部明宏(元ヨーロッパ開教師)

監事 田中哲彦(元ハワイ開教師)

長田敬道(元ハワイ開教師)

「SOTO禅インターナショナル」発足にあたり、各方面の御尊宿諸老師方よりご支援、ご尽力を戴きました。この紙面を借りて、御礼申し上げます。